



安定稼働の確保に向けて 統合業務システムを更新

NSSOLの支援でOracle EBSをR12にテクニカルアップグレード

背景

保守終了に備え、基幹業務システムとして活用しているOracle EBSを新バージョンへアップグレードする。業務に対する影響をできるだけ抑えるため、運用環境を直接更新するテクニカルアップグレードを実施したいと考えた。



独立行政法人 国立印刷局
総務部
情報管理グループ
主任専門官
迫田 正実氏



独立行政法人 国立印刷局
総務部
情報管理グループ
専門官
藤森 弘次氏



独立行政法人 国立印刷局
総務部
情報管理グループ
専門官
木下 恒晴氏



独立行政法人 国立印刷局
総務部
情報管理グループ
小林 晃氏

ソリューション

入札により新日鉄住金ソリューションズをITパートナーに選定。Oracle EBSに関する豊富な知識を持つ同社の支援により、確実にアップグレードを行う。併せて、運用環境の一部を開発用に利用するなど開発コストを抑える。

成果

Oracle EBSのアップグレードは計画通り2013年1月に完了。安定稼働を確保できる環境を整備することができた。プロジェクトの間、移行リハーサルに利用したサーバーは運用環境に戻して冗長性を高めている。

保守終了に備え、Oracle EBSのアップグレードを検討

日本銀行券(紙幣)を主とした証券類を、高度な偽造防止技術と効率的な生産技術で製造する国立印刷局。ERP(統合基幹業務システム)パッケージソフトウェアの「Oracle E-Business Suite(以下、Oracle EBS)」を導入し、財務管理、生産管理、原価管理などの基幹業務に活用している。

国立印刷局が同システムの更新を本格的に検討し始めたのは、2010年4月である。当時利用していたOracle EBS R11.5.10は、2013年11月にSustaining Supportになることが発表されており、安定稼働の確保にはアップグレードが不可欠だった。国立印刷局はアップグレード方法を調査。運用環境を直接更新することでデータをすべて引き継ぎ、業務に対する影響が少ない、テクニカルアップグレードを実施したいと考えた。

NSSOLをパートナーに選択、運用環境の一部を開発用に流用

国立印刷局は要件をまとめ、入札によって新日鉄住金ソリューションズ(以下NSSOL)をITパートナーに選択。2012年1月にプロジェクトをスタートさせ、約3カ月単位で「調査」「設計・開発」「テスト」「教育研修および移行リハーサル」の各フェーズを実施した。NSSOLは社内のOracle EBS専門支援チーム「ATC(Apps Technology Center)」と緊密に協力しながら、プロジェクトを支援した。併せて、国立印刷局は運用中のサーバーの一部を開発用に流用するなど開発コストを抑えた。運用用サーバー4台は同一機種であり、SAN(ストレージエリアネットワーク)ブートによって役割を柔軟に変更できるため、冗長性を確保しつつ4台のうち2台を移行リハーサル用として使用した。保守用サーバー2台は仮想化技術により保守環境と開発環境を同時に確保した。

アップグレードを計画通り完了、安定稼働を確保できる環境を整備

国立印刷局では、比較的長く統合業務システムを計画停止できる期間が、年末年始に限られる。綿密な検証とリハーサルを繰り返し行って、同期間内にOracle EBSのアップグレードを実施した。

こうして統合業務システムは、2013年1月から新バージョンのOracle EBS R12.1.3で運用を開始。安定稼働を確保できる環境を計画通り整備した。

アップグレード後は、移行リハーサル用として使用した2台のサーバーを運用環境に戻して冗長性を高めている。1台はAP(アプリケーション)サーバーとして利用し、アクティブ・アクティブ構成の冗長化を実現している。もう1台はDB(データベース)サーバーのロードスタンバイ環境で待機用マシンとして利用している。

Key to Success

国立印刷局が、統合業務システムで利用しているOracle EBSのアップグレードを実施した背景は、同システムの保守終了である。

総務部 情報管理グループ 主任専門官の迫田正実氏は、「当時利用していたOracle EBS R11.5.10は2013年11月以降、パッチが作成されなくなるため、安定性確保に向け、最新版へアップグレードする必要がありました。業務に対する影響をできるだけ抑えるため、管理番号などを含めた全データを新しい環境へ引き継ぎたいという要望があり、運用環境を直接更新するテクニカルアップグレードという方法を選択しました」と語る。

国立印刷局が要件をまとめ、入札によって選択したITパートナーがNSSOLである。同局は2012年1月、Oracle EBS R12.1.3へのアップグレードプロジェクトを開始した。

迫田氏は「できるだけ標準機能を利用し、新規のアドオン開発を極力しない方針でプロジェクトを進めましたが、パッケージソフトウェアはアップグレードに伴って操作方法や機能が必ず変化します。それについては情報管理グループが窓口になり、利用部門と調整の上、アドオン開発をするかどうかも含めて対応を判断しました」と振り返る。

NSSOLは、プロジェクトを効率的に支援したという。

総務部 情報管理グループ 専門官の藤森弘次氏は「総合テストやリハーサルを始めた2012年10月に、EBSの大規模な集積パッチがリリースされましたが、NSSOLの協力で適用するかどうかを適切に判断できました」と述べる。

総務部 情報管理グループ 専門官の

木下恒晴氏は「NSSOLの支援によりリハーサルを入念に行うことができ、アップグレード作業を不安なく進めることができました。運用環境の一部を開発用に利用するなど開発コストを抑えたことにより、負荷分散装置の切り替えのように一部リハーサルができないものもありましたが、NSSOLは製品ベンダーと連携して万が一の場合に対処できる体制を作りました」と語る。

業務への影響を抑えながら計画通り新版で運用を開始

新バージョンのOracle EBSを利用した統合業務システムは、計画通り2013年1月から運用を開始している。

総務部 情報管理グループの小林晃氏は「NSSOLのメンバーは大変よくやったと思います。プロジェクト中は、当局の問い合わせにすぐに対応してく

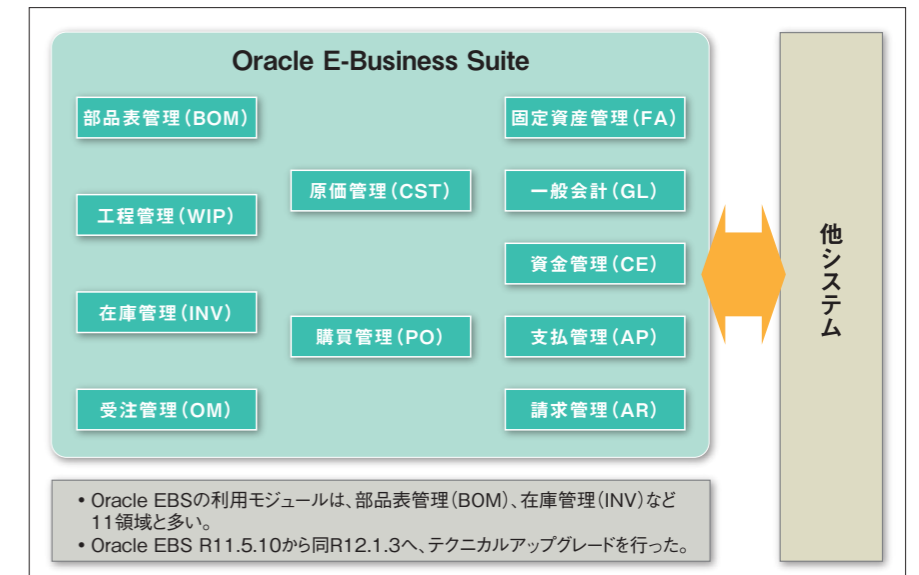
れ、Oracle EBSに精通した人を投入していただいていると感じました。プロジェクトの途中でメンバーが交替したときも、引き継ぎが確実に行われていました」と語る。

業務への影響を抑えながら安定稼働を確保できる環境を整備するという目的は期待通り実現した。

小林氏は「運用開始当初はアドオンに細かな不具合が見つかりましたが、NSSOLの迅速な対応で大部分は修正できました。テストは網羅的に行っていますが、全く修正がないシステムはありません。短期間でよく対応していただいたと思います」と振り返る。

今後の展開について迫田氏は「このプロジェクトは非常にうまく行ったと感じています。開発を行ったNSSOLは運用・保守業者への引き継ぎもスムーズに行っています。今後は運用業務の中で、統合業務システムのさらなる安定稼働に努めていきたいです」と語る。

国立印刷局がアップグレードした統合業務システムの概要



コアテクノロジー

ERP、テクニカルアップグレード、仮想化、プロジェクト推進力

システム概要

- サーバー：APサーバー×2、DBサーバー×2、保守APサーバー×1、保守DBサーバー×1など
- アプリケーション：Oracle E-Business Suite R12.1.3



独立行政法人 国立印刷局
本局所在地：東京都港区虎ノ門2-2-4
創設：1871年
資本金：1749億円(2012年3月31日現在)
職員数：4300名(2013年4月1日現在)